

第3号議案

平成28年度事業計画

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は、研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。そのため補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

平成28年度の科学研究補助金は、継続研究課題として6件が内定しており、新規研究課題として、15件を現在申請中で審査結果を待っている。

(1) 継続研究課題

基盤研究（B）一般

「出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について」

平成26～29年度 植田直見 13,300千円(研究期間合計額)

「日本中世における葬送墓制の総括的研究」

平成26～30年度 狭川真一 11,900千円(研究期間合計額)

基盤研究（C）一般

「東アジアにおける石材利用技術の地域性と伝播・展開に関する基礎的研究」

平成26～28年度 佐藤亜聖 3,800千円(研究期間合計額)

「東アジアにおける甲冑の変遷と祭祀利用の実態解明に関する基礎的研究」

平成27～29年度 塚本敏夫 3,600千円(研究期間合計額)

若手研究（B）

「日本中世における戦死者供養の実証的研究」

平成27～29年度 服部光真 1,500千円(研究期間合計額)

研究活動スタート支援

「疑似出土木材調製方法の開発」

平成27～28年度 山口繁生 2,000千円(研究期間合計額)

(2) 新規研究課題（計 15 件申請中）

基盤研究（B）一般	3 件
基盤研究（C）一般	5 件
挑戦的萌芽研究	2 件
若手研究（B）	4 件
学術図書	1 件

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学分野

南都十輪院（奈良県奈良市）	南都十輪院歴史資料調査および寺史編纂事業
総本山長谷寺（奈良県桜井市）	総本山長谷寺文化財等保存調査事業
四天王寺（大阪府大阪市）	四天王寺境内所在石造物調査業務
大阪府泉南市	泉南市文化財総合調査
大阪府高槻市	高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成業務
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る明石寺文化財詳細調査(その2)

総本山長谷寺文化財等保存調査事業は、平成 28 年度も継続して実施する。

南都十輪院歴史資料調査及び寺史編纂事業は平成 27 年度の古文書・聖教調査に続き、平成 28 年度は工芸品調査を行う。

四天王寺境内所在石造物調査業務も 2 年度目を迎え、境内無縁塔などの調査を行う。

12 年度目となる大阪府泉南市の文化財総合調査及び 4 年度目となる高槻市しろあと歴史館古文書史料目録作成事業は、平成 28 年度も引き続き実施する見込みである。

世界文化遺産指定推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務は、今年度も継続して行う見込みである。愛媛県では明石寺が 2 年度目の調査を予定している。

考古学分野

京都府京都市	平安京跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査遺物整理及び報告書作成事業
香川県丸亀市	丸亀城跡（大手町 3・4 次）調査出土遺物整理事業
和歌山県高野町	奥之院石塔調査にかかわる基礎台帳整理事業
奈良県宇陀市	史蹟宇陀松山城出土資料整理

京都市平安京跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査は平成27年度に開始し、平成28年度への継続事業となり発掘調査と遺物整理と報告書作成を行う。

平成18年度に当研究所が調査を行い、諸般の事情で調査報告書が未刊行の状態であった丸亀市丸亀城跡（大手町地区）4次調査出土資料整理は、3年度計画の3年度目で報告書の編集作業を行う。

和歌山県高野町の奥之院は昨年度より大名墓石塔実測調査を行っていたが、今年度は石造物全般の台帳整理を行う。

宇陀市松山城出土遺物整理は、国指定史跡宇陀松山城本丸出土遺物の分析、実測調査を行う。

この他、県内での発掘調査を予定している。

記録資料分野

千葉県佐倉市 国立歴史民俗博物館 所蔵資料の状態調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は11年目を迎える。歴博内では館内業務の位置付けを再検討する時期とのことだが、平成28年度は引き続き現地調査員を駐在させての委託業務として状態調査を行なう。昨年度より継続中の「ミニコミ資料」及び「台湾高山族民族資料」の状態調査を予定している。

伝世資料分野

沖縄県本部町 （一財）沖縄美ら島財団

海洋文化館所蔵資料の調査研究及び普及啓発に関する検討業務

平成22年度に実施した資料のクリーニング及び環境調査に続き、海洋文化館所蔵資料の状態調査及び保管環境調査を実施し、今後の保存計画の策定のためのデータ化と取り扱いマニュアルの整備を進める予定である。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（5）

奈良市内における石造物の悉皆調査は1989年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

平成28年度も平成27年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔について詳細な調査を行い、情報開示を行おうとするものである。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究分野

長野県諏訪市 小丸山古墳出土小札甲の自然科学分析

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析、琥珀の産地推定等を行う。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

記録資料分野

名古屋大学（愛知県名古屋市）	古文書・書籍の修復
南方熊楠記念館（和歌山県白浜町）	所蔵資料の修復
大阪府河内長野市	図書、引き札などの修復
埼玉県川口市	絵図面の修復

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は漉嵌法^{すきばめほう}、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。名古屋大学、南方熊楠記念館、河内長野市、川口市などが所蔵する資料の修復を実施する予定である。

その他、全国地方公共団体の修復に関する入札において、古文書や絵図面の修復業務に参入し仕事の枠を広げていく視点で進めている。

伝世資料分野

大分県佐伯市 重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具（網船）保存修理（その2）
岩手県陸前高田市 登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」保存修復業務
兵庫県養父市 浅間寺・十二神将像の修復

佐伯市は、平成27年度に行った保存修理業務の継続事業。網船の保存修理・実測図作成と平成13年度から行ってきた保存処理全般の報告書作成業務を実施する予定である。

陸前高田市は、平成27年度に引き続き平成28年度も東日本大震災による被災資料陸前高田市立博物館所蔵の漁撈用具について保存処理を行う予定である。

浅間寺所蔵十二神将像（室町期造像市指定文化財）の修復を行う。

埋蔵文化財保存研究グループ

出土木製品分野

出雲大社（島根県出雲市）	重文出雲大社境内遺跡出土品の保存処理
滋賀県東近江市	重要文化財雪野山古墳出土漆製品の保存修理
福島県会津若松市	重要文化財会津大塚山古墳出土漆製品の保存修理
愛知県清須市	清州城下町遺跡出土柿 経の保存処理
熊本県	曾畑貝塚出土植物性遺物再保存処理

平成23年度から7か年事業で出雲大社所蔵の重要文化財出雲境内遺跡出土の心御柱3本（鎌倉時代）他の保存処理を行っている。平成28年度はPEG含浸作業終了後の保管台の製作などを行う。

東近江市雪野山古墳（古墳時代）出土の鞆や堅櫛などの漆製品、会津若松市会津大塚山古墳（古墳時代）出土鞆と堅櫛、広島県福山市草戸千軒町遺跡（中世）出土木製品の保存修理を行なう予定である。

他に、清州城下町遺跡（室町時代）から出土した柿 経の保存処理や、平成3～6年度にわたり保存処理を行なった曾畑貝塚（縄文時代前期）出土植物性遺物の再保存処理を実施する予定である。

出土金属製品分野

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝神庭荒神谷遺跡出土青銅製品の保存修理
宗像大社（福岡県宗像市）	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土金属製品の保存修理
福島県会津若松市	重要文化財会津大塚山古墳出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品保存修理
大阪府豊中市	重要文化財大塚古墳出土金属製品の保存修理

国宝の保存修理として、平成22年度から7か年事業で行っている島根県神庭荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の保存修理が最終年度となる。

また、宗像大社所蔵・国宝沖ノ島祭祀遺跡（古墳時代から奈良時代）出土金属製品の保存修理は、平成27年度からの継続事業として作業を行う。

重要文化財では、平成27年度から行っている福島県会津若松市・会津大塚山古墳（古墳時代前期）出土品の保存修理が平成28年度で終了となる。

他の重要文化財の保存修理としては、広島県福山市・草戸千軒町遺跡（中世）出土品や、豊中市・大塚古墳（古墳時代）出土金属製品を行う予定である。

土器・3D分野

山形県 重要文化財水木田遺跡出土品保存修理

国の指定文化財の修理としては、重要文化財山形県・水木田遺跡出土の縄文土器4点の保存修理を予定している。他に大阪日本民芸館所蔵の飴釉泥刷毛目鉢の保存修理などを予定している。

また、当担当では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成28年度は昨年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施する予定である。その他、(株)乃村工藝社より受託し、熊本市立熊本博物館向けの展示用レプリカや演示具の制作を行う予定である。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

春季企画展・地域連携プロジェクト第1弾

『ならまちの南玄関－肘塚・京終の歴史文化』 ※(宗)元興寺と共催

当研究所は平成28年度に奈良市南肘塚町に統合移転する。今回これを記念し、肘塚とその周辺地域の歴史と文化財についての展示を開催する。

肘塚とその周辺はならまちの南の入口に位置し、人の行き交う交通上の要地にあって豊かな地域文化を形作ってきた、あわせて歴史的にも元興寺と関係が深い。

今回の展示では、当研究所でのこれまでの研究蓄積を踏まえて、考古資料、石造物、美術・工芸、民俗資料、古文書などの多様な資料によって肘塚とその周辺地域の歴史文化を紹介する。 (人文科学分野・考古学分野担当)

開催期間 平成28年4月29日(金)～5月15日(日)

開催場所 元興寺法輪館

秋季特別展『版木と仏教文化(仮)』 ※(宗)元興寺と共催

版木とは、護符(お札)などを大量に印刷して参詣者に配布するために作られた木版用の板をいう。版木は、庶民に最も身近な仏教文化財であり、かつ庶民信仰の実相を知るうえで欠かせぬ資料である。

当研究所では、(公財)大和文化財保存会助成事業として平成7年度より平成27年度にかけて奈良県内寺社所有の版木の調査を行い、報告書20冊を刊行してきた。その集大成として特別展を開催する。

今回の展示では、これまでの調査で見いだされた版木やその拓本を主に展示し、文化財としての版木そのものの特質、仏教版画や護符(お札)などから分かる庶民の信仰、仏教文化を紹介する。 (人文科学分野担当)

開催期間 平成28年10月下旬～11月上旬 ※正倉院展と同時期
開催場所 元興寺法輪館

『発掘された日本列島2016』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務の企画競争による平成28年度公募に企画提案書を提出し、審査結果を待っている。

平成28年度は、中核展示・テーマ展示の二部構成で、北海道から山口県までの12遺跡から出土した資料約760点を展示する。テーマ展示は、特集1「復興のための文化力ー東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護ー」で震災復興に先立ち発掘調査された7遺跡、特集2「復興の歴史を掘る」で過去に起こった災害から立ち直ろうとする歴史を明らかにした7遺跡について展示する。

業務内容は、本展に関わる出陳物の集荷・納品に係る輸送、パンフレット・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理のほか開催予定各館との調整など多岐にわたる。

開催館数は平成23年度以降5館で定着し、平成28年度は東京都江戸東京博物館、大津市歴史博物館、秋田県立博物館、高知県立歴史民俗資料館、北九州市自然史・歴史博物館での開催予定となっている。

文化講座の開催

文化講座を(宗)元興寺と共催で毎月1回開催する予定である。前期については次の内容で開催する。

- 4月15日(金) 終末期古墳と仏教
ー古墳に見える仏教の影響を探るー
- 5月13日(金) 火葬が始まった頃
ー火葬は仏教の影響で広がったのか?ー
- 6月17日(金) 奈良時代のお墓事情
ー墓の造営に仏教の影響はあるのかー
- 7月15日(金) 聖武天皇の供養と仏教
ー陽宝剣・陰宝剣の発見からー
- 8月19日(金) 平安時代からのお墓事情
ー平安京周辺の天皇陵と仏教ー

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2016』（1,300冊）刊行予定

平成23年度から、（公財）畠山文化財団からの助成金を受けて刊行している。

平成28年度については現在申請中である。

7. 体験活動

広く社会に対し、研究、調査成果を還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。